

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 令和3年11月12日（金）

第6校時 14:00～14:50

対 象 2年2組（男子18名、女子19名 計37名）

学校名 墨田区立両国中学校

授業者 主任教諭 佐藤 久美子

- 1 題材名 「健康・快適・安全で持続可能なよりよい住生活に向けて」
B衣食住の生活 (6)アイ 住居の機能と安全な住まい方

2 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家庭内事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族の生活と住空間の関わり、住居の基本的な機能、家庭内事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	家庭内事故や自然災害における家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

4 指導観

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領の技術・家庭編 家庭分野の内容「B 衣食住の生活」（6）住居の機能と安全な住まい方について題材を構成している。

生徒を取り巻く社会や環境では、少子高齢化の進行や予想を超えた自然災害の発生などの様々な変化が急激に進んでいる。また、コロナ禍により家族が家庭で過ごす時間が増え、リモートワークやオンライン授業が推奨されるなど生活様式が変化したことで、改めて住まい方について考える機会が増えている。このような状況の中で、生徒たちには社会の変化に主体的に対応しながら生活することや、持続可能な社会の構築を目指して住まうことが求められている。しかし、実際に頻発する予想を超えた自然災害に備えること、以前よりも家族と過ごす時間が増えた住まいでの生活の仕方を工夫することなど、住生活を自分のこととして捉え、実践できていない状況が見られる。

そこで本題材では、住生活の問題を見極め、課題を設定し、解決する力を養い、家族とともに住生活を工夫し創造する一連の学習活動を行うことで、問題を自分のこととして捉えて実践する生徒を育成できると考える。

(2) 生徒観

令和2年7月に東京都23区内10校の中学1，2年生2,395人を対象に住生活の授業で扱う用語について調査を行った。住生活に関連する「住空間」，「持続可能な社会」，「SDGs」の用語を聞いたことがあると答えた生徒の割合が約20%であることに對し，説明できると答えた生徒の割合は10%に満たなかった。また，「防災」について説明できる生徒，災害に対する備えをしている生徒は約70%であったが，地域の防災活動に参加する生徒は15%だった。

本校の生徒は，授業では前向きに取り組む姿勢があり，グループ活動を通して積極的に学び合うことができる。第1学年の総合的な学習の時間において「防災」をテーマに地震が起きた時の地域での行動を提案する学習を行ってきた。災害の対策や安全について学ぶ機会があるが，自分の住まいに置き換えて考えると問題点や困っていることに気づきにくい傾向がある。

このような生徒の実態を踏まえ，持続可能な社会の構築に向けて家庭内での実践を促すことが必要であると考えている。本題材では，自分や家族を取り巻く身近な問題点に気づき，問題を見極め課題を設定し，解決する活動を通して，自分のこととして住まい方について考え，よりよい住生活を実現していこうとする力を育成したい。

(3) 教材観

①個に応じた課題の設定や解決につなげるICT機器の活用

資料や個人の考えを電子黒板に提示することで，自己の住生活における問題を見極め，視覚的に捉えたり多角的に検討したりできるようにする。また，授業で使用した画像や動画等をタブレット端末等を活用して，いつでも振り返ることができるようにすることで，個に応じた課題の設定や解決につなげる。

②家庭での実践につなげるワークシートの活用

第1時の問題発見と課題設定，最終時の家庭や地域での実践に向けてのワークシートを1枚にまとめ，対比して書けるようにした。それにより，第1時に題材全体を見通すことができる。また，第2時以降で学習した内容をもとに各授業の終末に「自分でやろう・家族に伝えよう」を記述し，題材全体のまとめで考察したことを論理的に表現できるような仕様にした。最終時には，いつまでに実行するのかを書くことで，家庭での実践につなげる意識をもたせる。

③生活を長期的に展望するためのモデル家族とモデル住宅鳥瞰図の活用

題材を通して共通の家族や住まいを活用して考えることにより，題材にストーリー性をもたせ，様々な変化に對する住まい方を工夫し，創造できるようにする。

5 指導と評価の計画（8時間）

〔1〕	住生活の問題発見・課題設定	1時間（本時）
〔2〕	住まいの機能	1時間
〔3〕	住空間の使い方	1時間
〔4〕	家族の安全を考えた住空間の整え方	3時間
〔5〕	よりよい住生活に向けて	2時間

フェーズ	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「住居の機能を知り、安全に住もう」	1	<p>○健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために、住空間の整え方について問題を見いだし、課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での「快適な住まい方」の学習を振り返るとともに、家族の生活や社会の現状について確認する。 ・モデル家族のライフスタイルの変化によって、住まいで起こる心配なことや困ることを考える。 ・本時の学習をもとに、自分の住生活を振り返り、住生活についての問題を見極めて課題を設定する。 		①健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために、住空間の整え方について問題を見いだし、課題を設定している。 (ワークシート)	
	2	<p>○住居の基本的な機能について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル家族と鳥瞰図から住空間での生活行為とその目的を考える。 ・定住型住まいと多拠点型コリビングの住まいを知り、その特徴から中学生のいる家族はどのような住まい方がよいか考える。 ・住居の基本的な機能（心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働き）についてまとめる。 	①住居の基本的な機能について理解している。 (ワークシート)		①住居の機能や家族の生活と住空間との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 (行動観察・ワークシート)
	3	<p>○家族の生活と住空間との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住まいに必要な空間について考える。（個人生活、共同生活） ・住まいを探す側と住まいを提案する側になり、4つの間取りを例に挙げ、家族の生活の変化に合わせた住まい方を考える。 	②家族の生活と住空間との関わりについて理解している。 (ワークシート)		②住居の機能や家族の生活と住空間との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 (行動観察・ワークシート)

	<p>○自然災害に備え，家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害（地震）が起きた時に予想される住まいの中の危険について考える。 ・資料『東京防災』を参考に，自然災害（地震）に対する備えや起こりうる危険への対策について話し合い，まとめる。 	<p>③自然災害に備え，家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 (ワークシート)</p>		<p>①家族の安全を考えた住空間の整え方について，課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 (行動観察・ワークシート)</p>
	<p>○家庭内の事故の防ぎ方など，家族の安全を考えた住空間の整え方を理解する。</p> <p>○健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために，家族の安全を考えた住空間の整え方について考え，工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル家族の一員（幼児・小中学生・親・高齢者）になりきって，住まいの中で起こる家庭内事故について考える。 ・予想される危険について班で話し合い，「家庭内事故分析シート」に付箋を貼りまとめる。 ・住まいの中の危険と，予想した対策について，次時までに家庭や地域でインタビューを行ってくる。 	<p>④家庭内の事故の防ぎ方など，家族（幼児，高齢者）の安全を考えた住空間の整え方を理解している。 (ワークシート)</p>	<p>②健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために，家族の安全を考えた住空間の整え方について考え，工夫している。 (行動観察・ワークシート)</p>	<p>②家族の安全を考えた住空間の整え方について，課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 (行動観察・ワークシート)</p>
7・8	<p>○健康・快適・安全で持続可能な社会の構築を考えた住空間の整え方について考え，発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時と同様の課題「家族のライフスタイルの変化」に取り組み，これまでの学習を確認する。 ・第1～6時を振り返り，「よりよい住まいプラン」を作成し，班や全体で発表し合う。 ・「よりよい住まいプラン」を家族と話し合うために家庭に持ち帰る。 		<p>④健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために，住空間の整え方についての課題解決に向けた一連の活動について，考察したことを論理的に表現している。 (行動観察・ワークシート)</p>	

「住居の機能を知り、安全に住まう」		○健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るための「よりよい住まいプラン」を発表し合い、評価・改善することができる。		③健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために、住空間の整え方について、実践を評価したり、改善したりしている。 (ワークシート)	③よりよい住生活の実現に向けて、住居の機能や家族の生活と住空間との関わり、家族の安全を考えた住空間の整え方について、工夫し創造し、実践しようとしている。 (ワークシート)
	7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・班で「よりよい住まいプラン」について意見交換をし、参考になる内容を追記する。 ・「自分でやること」と「家族に伝えること」を再検討し、「よりよい住まいプラン」を完成する。 ・よりよい住生活にするためにどのような住まい方にしたいのかを理由とともに記入する。 			

6 本時（全8時間中の第1時）

(1) 本時の目標

- ・健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために、住空間の整え方について問題を見いだして、課題を設定する。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 10分	住生活について振り返ろう <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の住生活の学習について振り返る。 ・住生活に関する家族の生活や社会の現状について画像等で確認する。 ・タブレットも活用して確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の既習事項である整理・整頓、掃除、季節の変化に合わせた住まいとその生活(換気、音、明るさ)に触れる。 ・学習後に、家庭生活の中で実践したことを問い、自分の生活として意識付ける。 ・画像を通して家庭内事故、自然災害、持続可能な住生活、コロナ禍による生活の変化の4つの視点に着目できるようにする。 ・画像を印刷した資料を黒板に掲示する。 ・自分の生活と関連させながら、確認させる。 	

展 開	住生活について問題を見極めよう		
	モデル家族をもとに、ライフスタイルの変化によって住まいで起こる心配なことや困ること（問題点）を考えよう。		
	<div>モデル家族 父 母 中学生 小学5年生 幼児</div> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに担当テーマを決める。 	担当テーマ A 祖父母(75歳)と同居する 視点：家庭内事故，持続可能(バリアフリー，ユニバーサルデザイン) B きょうだい(幼児)が歩き回れるようになる 視点：家庭内事故，持続可能 C 大地震が起こる 視点：自然災害への対応・持続可能 D 父がテレワークになる 視点：室内環境，住空間の使い方	
	25分 <ul style="list-style-type: none"> ・心配なこと，困ること（問題点）を個人で考えた後，4人班で意見交換する。 ・全体で発表する。 ・発表を聞き，担当以外の発表で参考になったことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル家族とモデル住宅の鳥瞰図を今後の授業でも継続して活用することと，鳥瞰図の見取り方についてタブレット端末を活用して説明する。 ・家族構成や生活様式に合わせて住まい方を変えていく必要があることに気付かせる。 ・住空間を健康・快適・安全で持続可能な社会の構築の視点で捉え，問題点を考えさせる。 	
	今まで学習したことをもとに自分の住生活を振り返り，心配なことや困っていること，さらによくしていきたいことを考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住生活を振り返り，困っていることやよりよくしていきたいことを考え，ワークシートに記入する。 ・班で意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時の掲示物を再度示し，小学校の既習事項，家族の生活や社会の現状の画像等，モデル家族を活用した話し合い活動や発表と自分の生活に関連付けて問題を見極めさせる。 ・プライバシーに十分配慮しながら班内発表をさせる。 	
ま と め	住生活について課題を設定しよう ・住生活8時間の学習テーマを考える。	・班内発表での問題から共通項をもとに，「誰もが安全・快適に住み続けられる住生活」にしていく必要があることに気付かせる。	
	学習テーマ：誰もが安全・快適に住み続けるためにはどうしたらよいか。		
15分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住生活の課題と理由をワークシートに記入する。 ・数名が全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と共に解決したい内容を課題として設定させる。 ・数名の発表者のワークシートをタブレット端末で撮影して，提示する。 ・今後の学習は，本時の学習を元に学習していくことを伝える。 	①健康・快適・安全で持続可能な住生活を送るために，住空間の整え方について問題を見いだして，課題を設定している。 【思考・判断・表現】 (ワークシート)